

回遊性促進型イベントの傾向に関する研究

— 定量的指標による分析を通して —

大阪市立大学大学院工学研究科 長谷川 昂輝 同上 寺口 毅
同上 加畑 文裕 同上 西村 亮介
同上 河原 知樹 同上 嘉名 光市
同上 出口 智也 同上 佐久間 康富

1.はじめに

1-1.研究背景、目的

近年、都市においては充実した業務機能だけでなく消費、レジャー、娯楽など人々の生活を魅力的にする機能も幅広く持ち合わせる事が求められている。都市における魅力向上に向けて、回遊性という概念が生まれ、注目が集まっている。都市における魅力向上には、「歩行」のみならず「休憩する」、「他者とのコミュニケーションを取る」といった行動も大きく関わると考えられる為、本研究では回遊性を「空間内に様々なアクティビティが生まれている状態」として定義する。例えば中心市街地活性化基本計画では歩いて暮らせる生活空間の実現を目標に、歩行者の回遊性促進のための事業が推進されている。また中心市街地活性化基本計画の有無に関わらず、各都市でオープンカフェやまちなかソールの様なイベント・社会実験の実施といった事業、まちなか広場の創出といったハード整備によって、回遊性の促進を図る事例も散見される。

これらの内、まちなかソールの様な「人々の新たな回遊行動を誘発する様なイベント」を本研究では回遊性促進型イベントと定義する。こうしたイベントはハード整備に比べ実施期間が短く、都市の回遊性促進・活性化に向けてのきっかけとなる効果的な方法であるといえる。しかし、その内容や開催規模は多様であり、開催地の自治体規模(以下、都市分類とする)に大きく関係すると考えられるが、これまでそうした事例の横断的な調査・分析は行われておらず、その実態は明らかになっていない。

そこで本研究では、回遊性促進に向けての枠組みを明らかにする。その中で回遊性促進型イベントに着目し、横断的な調査から事例の抽出を行う。その上で、イベントごとの開催規模・都市分類の特徴を整理し、イベント間での横断的な傾向や特徴を明らかにすることを目的とする。

1-2.研究の位置づけ

回遊性に関する研究は空間構成¹⁾やトランジットモールや社会実験などの交通²⁾、イベントおよび社会実験に着目した研究³⁾が存在する。本研究は、イベントおよび社会実験に着目した一連の研究に位置づけられる。奥平ら³⁾は、イベント時における回遊行動に着目し、千葉市におけるパラソルギャラリーを取り上げ、仮設環境による公共空間のアクティビティの形成を明らかにした。

本研究では、まず回遊性促進に関する枠組みを明らかにした後に、それらのイベントに関して、定量的指標を用いながら横断的に分析することに特徴がある。

1-3.研究のフロー

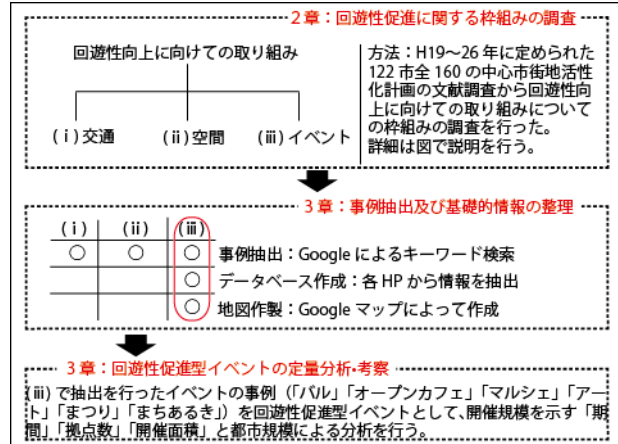


図1：研究のフロー

最初に、全国の中心市街地活性化基本計画を対象に、回遊性促進に向けた取り組みについて整理を行い、取り組みを把握することで枠組みを明らかにする。次に、回遊性促進型イベントについて、Googleによるキーワード検索を用いて抽出を行う。更に抽出した事例について開催期間や開催面積といった開催規模に関する指標の収集を行い、回遊性促進型イベントの傾向を明らかにする。

2.回遊性促進に関する取り組みを把握する枠組み

2-1.調査概要

全国の中心市街地活性化基本計画では、その理念の一つとして「回遊性向上の促進」や「賑わいの創出」などが定められている。本研究では「回遊性向上」、「賑わいの創出」、「観光魅力創出」、「商業活性化」、「公共交通の利便性向上」の5つの理念の元に行われている取り組みを回遊性促進に向けての取り組みであるとした。

H19～H26年までに全国で定められた全160の中心市街地活性化基本計画を対象に、その概要から上記の5つの理念に基づいて行われている取り組みを整理し、回遊性促進に向けての枠組みを明らかにする。

2-2.調査結果(図2)

回遊性促進に関する取り組みを把握するにあたり(i)交通(ii)空間(iii)イベントの3つから捉えられることがわかった。(i)はLRTやレンタサイクルの実施といった交通整備を行うもの、(ii)は拠点施設や滞留空間の整備といった空間整備を伴うもの、(iii)はイベント実施によるものとし、(iii)は更に「バル⁴⁾」、「オープンカフェ⁴⁾」、「マルシェ」、「アート」、「まつり」、「まちあるき」の6つに分類される。本

研究ではそのうち(iii)を回遊性促進型イベントとして捉え分析の対象とする。



図2：回遊性促進に関する枠組み

3. 事例の抽出及び回遊性促進型イベントの定量分析

3-1. 事例毎の基礎的情報の調査

2章で抽出した回遊性促進型イベントについて、全国的にイベントとして定着した事例を得るために Google によるキーワード検索によって事例の抽出を行った。キーワードは2章で得られた事例をもとに設定した。2015年2月5日時点で30件までの検索結果を対象とした。重複または詳細の確認が不可能、イベントに該当しない事例は省いた。開催規模に関わる要素として、「期間」、「面積」を、「拠点数」抽出した。また自治体の規模を表すものとして、「都市分類(政令指定都市・中核市・特別区・該当なし)」を設定した。

表1：抽出項目の定義

	バル	オープンカフェ	マルシェ	アート	まつり	まちあるき
検索キーワード	バル	オープンカフェ	朝市 マルシェ マーケット	芸術祭 ビエンナーレ トリエンナーレ	祭り フェスタ	まちあるき
地域名	自治体名を記載。複数に渡る場合は全て記載 (ex: 横浜市)					
開始年	最初にイベントが開始された年 (ex: 2009年)					
期間	年間通しての開催日の合計日数を記載。なお例えば毎月一回実施されるものについては12回/年として表記する。また年中行われているものは365日と表記する。(ex: 10日/年)					
面積	東西・南北の最端の拠点間距離の積によって算出 (ex: 2.4 km ²)					
拠点数	HP記載の店舗数表記 (ex: 20個) HP記載の店舗、展示数、表記。まちあるきは各コースに定められた拠点数を表記。なお複数エリアに渡るものは平均の値を算出する。(ex: 20個)					
都市分類	公共団体の分類 (政令指定都市・中核市・特別区・該当なし)					

本研究で対象とする回遊性促進型イベントについて、全体及びイベントごとに見られる傾向を明らかにするため、分析を行った。分析に用いる指標として、表1に基づいて抽出した、「期間」、「面積」、「拠点数」、「都市分類」を用いる事とする。分析方法としては、(1)抽出したイベントをそれぞれの指標を軸とした分類、(2)「面積×拠点数」、「面積×

期間」の2軸を用いた分類とする。分類を行った結果を図3に載せる。

3-2. 事例一覧(表2)

「期間」は、10日未満をα(短期)、10日以上60日未満をβ(中期)、60日以上365日未満をγ(長期)、365日をθ(常時)、「拠点数」は、30個未満をI、30個以上120個未満をII、120個以上をIII、「面積」は、1km²未満をA(狭域)、1km²以上4km²未満をB(中域)、4km²以上をC(広域)と表す。①は政令指定都市、②は中核市、③は特別区、④は①～③に該当しない都市を表す。

3-3. 項目ごとに見られる傾向(図3)

3-3-1.1 軸：期間

10日以内という短期間のもの、年間100日前後のもの、年中行っているものの3つに分類することができた。イベントごとではマルシェは比較的ばらつきがあるのに対し、まつり・バルは短期的、アートは中期的に、まちあるき・オープンカフェは常時開催されている傾向が確認できた。

3-3-2.1 軸：面積

大半の事例は1km²以内で開催されている。その中でもバルやアートは店舗や展示物が点在していることから、比較的広域なものが見られる。回遊性促進型イベントを行なうにあたっては1km²以内が回遊性促進に適した面積であることがうかがえる。

3-3-3.1 軸：拠点数

まつり・まちあるき・オープンカフェ・アートは20以下の拠点数で行われる傾向にある。マルシェ・バルに関しては既存店舗が参加するため、事例ごとに拠点数のばらつきがうかがえる。

3-3-4.2 軸：面積×拠点数

面積と拠点数から開催面積内の拠点の密集度を見たとき、マルシェおよび一部のバルは密度が高くなる。マルシェは広場や公園などで開催されているためと考えられる。

3-3-5.2 軸：面積×期間

全体の傾向として、期間が短くなるほど広くなっている事例が多く、長くなるほど狭くなっていることが分かる。「短期・狭域」のイベントとしてバルやまちあるきが多く、「中期・狭域」のイベントとしてアートが多いなど、イベントによる傾向が確認できた。

3-3-6. 都市分類

マルシェやまちあるき、バルは政令市では見られず地方都市に多いことから都市規模が開催可能な要素には関係が薄いと考えられる。オープンカフェは政令市または特別区のみで見られ一定の都市規模を必要とすると考えられる。まつりやアートは半数以上政令市で占められるが、政令市以外の都市でも開催が見られる。

3.4. イベント間と都市規模間での比較分析

イベント間と都市規模間での特徴を表3に示す。この表は都市規模①～④のそれぞれでのイベント間の比較【1】、マルシェからアートのそれぞれでの都市規模間の比較【2】を示している。【1】でイベント間を横断している特徴は、

表2：抽出事例一覧

No	イベント名	都道府県	市区町村	期間	面積	拠点数	都市分類
1	太陽のマルシェ	東京都	中央区	α	A	II	③
2	とくしまマルシェ	徳島県	徳島市	β	A	II	④
3	石巻マルシェ	宮城県	石巻市	α	A	I	④
4	北の恵み食べマルシェ	北海道	旭川市	α	B	III	②
5	函館朝市	北海道	函館市	θ	A	III	②
6	三崎朝市	神奈川県	三浦市	β	A	II	④
7	輪島朝市	富山県	石巻市	β	A	III	④
8	八戸館鼻岸壁朝市	青森県	八戸市	β	A	III	④
9	倉敷朝市	岡山県	倉敷市	β	A	II	②
10	定禅寺ストリートジャズフェスティバル	宮城県	仙台市	α	B	II	①
11	タイフェスティバル東京	東京都	渋谷区	α	A	I	③
12	タイフェスティバル大阪	大阪府	大阪市	α	A	I	①
13	タイフェスティバル名古屋	愛知県	名古屋市	α	A	I	①
14	愛フェス	愛知県	長久手市	α	A	I	④
15	FUKUNE MUSIC FES	岐阜県	高山市	α	A	I	④
16	名古屋まつり	愛知県	名古屋市	α	A	I	①
17	神戸まつり	兵庫県	神戸市	α	A	I	①
18	野沢温泉の道祖神祭り	長野県	下高井郡	α	A	I	④
19	さっぽろ雪まつり	北海道	札幌市	α	A	I	①
20	燕三条まちあるき	新潟県	三条市	θ	A	I	④
21	大阪あそび	大阪府	(1)大阪市 (2)東大阪市 (3)堺市	θ	A	I	①(1) ②(2) ①(3)
22	てくてく函館	北海道	函館市	γ	A	I	②
23	鹿児島ぶらりまち歩き	鹿児島県	鹿児島市	θ	A	I	①
24	大阪まちあるき	大阪府	大阪市	θ	B	I	①
25	生地まち歩き	富山県	黒部市	θ	A	I	④
26	松江おちらとあるき	島根県	松江市	θ	A	I	④
27	えんでこ	新潟県	新潟市	γ	A	I	①
28	うめきた先行開発地区オープンカフェ	大阪府	大阪市	θ	A	I	①
29	広島市京橋川オープンカフェ	広島県	広島市	θ	A	I	①
30	久屋大通オープンカフェ	愛知県	名古屋市	θ	A	I	①
31	隅田公園オープンカフェ	東京都	台東区	γ	A	I	③
32	日本大通りオープンカフェ	神奈川県	横浜市	γ	A	I	①
33	オープンカフェ「ソトカフェみなとみらい」	神奈川県	横浜市	θ	A	I	①
34	函館西地区バル	北海道	函館市	α	B	II	②
35	あるくん奈良まちなかバル	奈良県	奈良市	α	B	II	②
36	バルウォーク福岡	福岡県	福岡市	α	C	II	①
37	伊丹街中バル	兵庫県	伊丹市	α	A	II	④
38	立川バル街	東京都	立川市	α	A	II	④
39	バルウォーク那覇	沖縄県	那覇市	α	B	II	②
40	まちなかのバル	東京都	中野市	α	A	II	④
41	わかやま城下町バル	和歌山県	和歌山市	α	C	II	②
42	魚津 de バル街	富山県	魚津市	α	C	II	④
43	瀬戸内国際芸術祭	香川県	(1)高松市 (2)直島町 (3)土庄町 (4)小豆島町 (5)岡山市 (6)坂出市 (7)丸亀市 (8)三豊市 (9)観音寺市 (10)玉野市	β	A	III	②(1) ①(5) ④(2)(3) (4)(6)(7) (8)(9)(10)
44	札幌国際芸術祭	北海道	札幌市	γ	A	I	①
45	京都国際芸術祭	京都府	京都市	γ	C	I	①
46	あいちトリエンナーレ	愛知県	(1)名古屋市 (2)岡崎市	γ	A	I	①(1) ②(2)
47	ヨコハマトリエンナーレ	神奈川県	横浜市	γ	B	I	①
48	神戸ビエンナーレ	兵庫県	神戸市	γ	A	I	①
49	ニコニコトリエンナーレ	東京都	目黒区	α	A	I	③

①政令指定都市は長期狭域型と常時狭域型、②中核都市は短期中域型と中期狭域型、③特別区は短期狭域型、④左記以外は短期狭域型と中期狭域型である。なお③特別区と④左記以外では短期狭域型の特徴、②中核市と④左記以外では中期狭域型の特徴が共通することが分かった。【2】で都市規模間を横断している特徴は、マルシェでは短期狭域型と中期狭域型、まつりでは短期狭域型、まちあるきでは長期狭域型と常時狭域型、オープンカフェでは長期狭域型、バルでは短期広域型、アートでは都市規模間を横断する特徴は見られなかった。また、マルシェとまつりでは短期狭域型の特徴、まちあるきとオープンカフェでは長期狭域型の特徴が共通する事が明らかになった。それぞれの比較の中でほとんどが狭域型を示していた。

表3：イベント間と都市規模間での比較分析

都市規模	群	①政令指定都市	②中核市	③特別区	④左記以外	都市規模間の特徴
マルシェ	α 群	該当なし	$\alpha-B-III(1)$	$\alpha-A-II(1)$	$\alpha-A-I(1)$	短期狭域型 ($\alpha-A$)
	β 群	該当なし	$\beta-A-II(1)$		$\beta-A-II(2)$	中期狭域型 ($\beta-A$)
	θ 群		$\theta-C-III(1)$			
まつり	α 群	$\alpha-A-I(5)$	該当なし	該当なし	$\alpha-A-I(2)$	短期狭域型 ($\alpha-A$)
	β 群	$\alpha-B-II(1)$				
まちあるき	α 群			$\alpha-A-I(1)$		長期狭域型 ($\gamma-A$)
	γ 群	$\gamma-A-I(1)$	$\gamma-A-I(1)$			長期狭域型 ($\gamma-A$)
オープンカフェ	θ 群	$\theta-A-I(2)$	$\theta-A-I(1)$		$\theta-A-I(3)$	常時狭域型 ($\theta-A$)
	β 群	$\theta-B-I(1)$				
バル	γ 群	$\gamma-A-I(1)$		$\gamma-A-I(1)$		長期狭域型 ($\gamma-A$)
	θ 群	$\theta-A-I(3)$	該当なし		該当なし	
アート	α 群		$\alpha-B-II(3)$	該当なし	$\alpha-A-II(3)$	短期広域型 ($\alpha-C$)
	β 群	$\alpha-C-II(1)$	$\alpha-C-II(1)$			
イベント間の特徴	α 群			$\alpha-A-I(1)$		
	β 群		$\beta-A-III(1)$			
	γ 群				該当なし	
		長期狭域型 ($\gamma-A$)	短期中域型 ($\alpha-B$)	短期狭域型 ($\alpha-A$)	短期狭域型 ($\alpha-A$)	
		常時狭域型 ($\theta-A$)	中期狭域型 ($\beta-A$)		中期狭域型 ($\beta-A$)	

4. まとめ

本研究では、全国の事例を横断的に調査した結果、以下のことが明らかになった。

1) 都市における回遊性促進に向けての枠組みとして、「交通」「空間」「イベント」の3つに、その内、イベントはマルシェ、まつり、まちあるき、オープンカフェ、バル、アートの6つに分類出来る。

2) 期間はバルでは短期、マルシェ、まつり、アートは短期～中期、まちあるき、オープンカフェは長期で開催される。面積はバルでは広域、その他のイベントでは狭域が多数をしめる。拠点数ではマルシェ、バルでは数にばらつきが見られ、その他は少数の事例が大半を占める。

3) オープンカフェでは政令市もしくは特別区のみでの開催であり、ある程度の都市規模が必要であるが、マルシェ、まちあるき、バルなどではあまり都市規模を必要としない。

4) 期間、面積、拠点数を合わせてみた結果、マルシェ、まちあるき、アートは多くのタイプに分類され、まつり、オープンカフェ、バルは1～2のタイプに留まる。その中でマルシェ、まつり及びまちあるき、オープンカフェにはそれぞれ共通した傾向が見られる。

本研究は回遊性促進型イベントを推進していく上での知見とすることで、イベントによる回遊性促進の意義をより高めていけるのではないかと考える。今後の課題としては、空間や交通に関しても同様の分析が求められる。

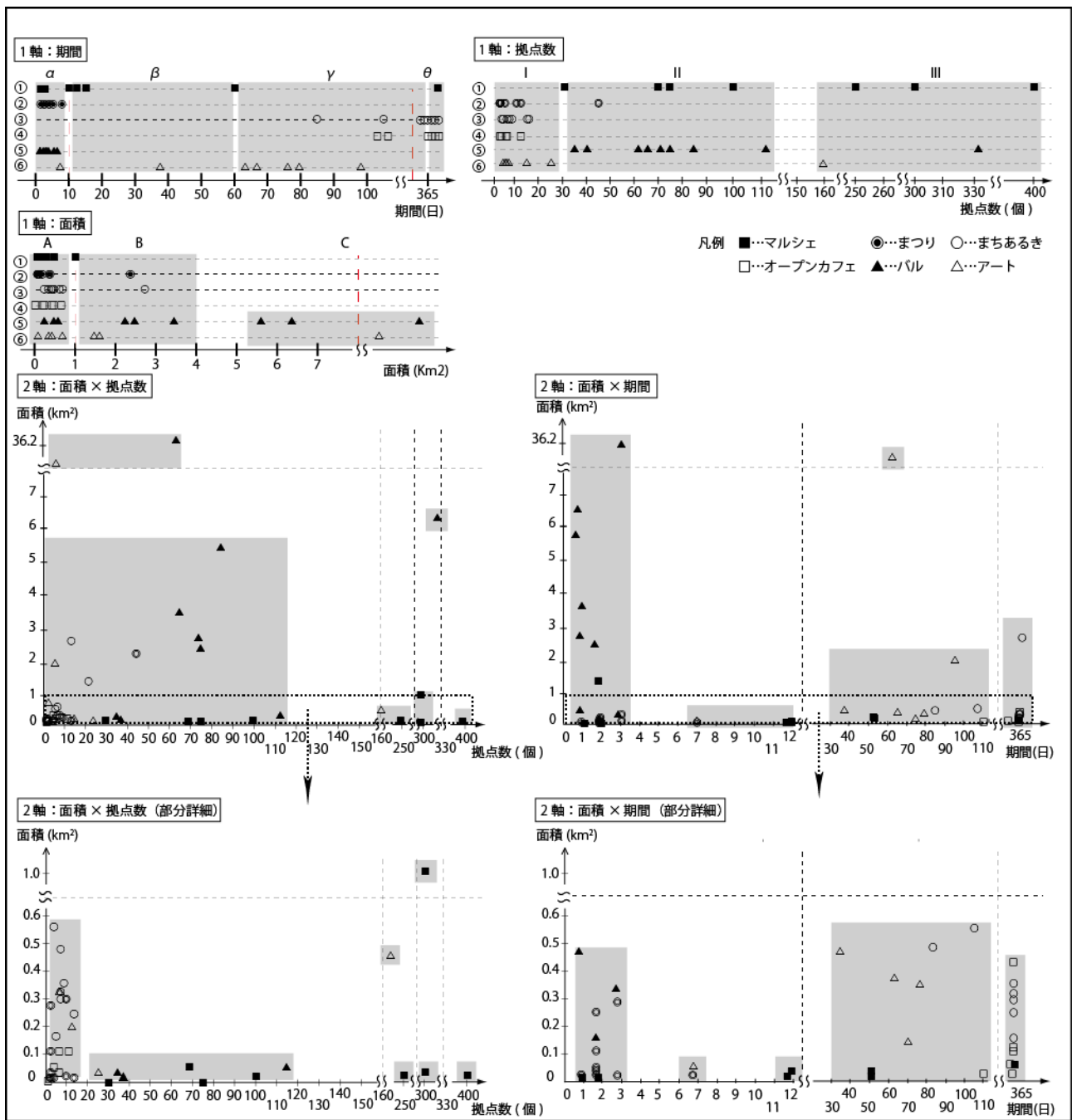


図3：回遊性促進型イベントの定量分析結果

<補注>

(1) 「バル」、「オープンカフェ」に関しては既往研究³⁾⁴⁾から、回遊性促進につながるイベントであると考え、本研究では対象項目として加えた。

<参考文献>

1) 高橋弘明、後藤春彦、佐久間康富、斎藤亮、石井雄晋(2005), 「商業集積における来訪者の回遊行動と店舗密度の関係についての研究-下北沢周辺地域を事例として-」, 日本都市計画学会都市計画論文集, No.40-3, pp.649-654
 2) 柳沢吉保、高山純一、轟直希(2006), 「中心市街地回遊トリップ特性に着目したトランジットモールの導入効果に関する評価分析-長野市中心市街地中央通りの交通社会実験を事例として-」, 日本都市計画学会都市計画論文集,

No.41-3, pp.31-36

3) 奥平純子、郭東潤、馮瑤、斎藤伊久太郎、北原理雄(2008), 「仮設環境による公共空間のアクティビティ生成に関する研究-千葉市バラソルギャラリーにおけるにぎわい調査-」, 日本建築学会計画系論文集, 第73巻, 第638号, pp.161-16
 4) 長廣那津弥、中山徹(2011), 「イベントを通じた商店街活性化に関する研究-あるくん奈良まちなかバルを事例として-」, 日本建築学会近畿支部研究報告集, No.51, pp.437-440
 5) 齊藤充弘、木下康之(2009年), 「歩行者交通に着目した地方都市中心市街地の利用形態について-いわき市中心市街地の利用形態について-」, 日本都市計画学会都市計画論文集, No.44-1, pp.11-19